

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	定住対策プロジェクト推進費						
担 当 課 係 名	重点プロジェクト推進室 課	-		係	作成者	畠山 徹	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち					総合計画の ページ
	基本計画	定住対策の推進					
	主要施策	住宅、雇用情報の提供					40
予 算 費 目	一般 会計	2 款	総務費	1 項	総務管理費	6 目	企画費
事 業 期 間	平成 19 年度 ~ 平成 年度			新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理						
根 拠 法 令 等	なし						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務						
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助						

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	仙北市外在住者及び市民。
事業の目的・意図 （どういう状態に したいのか）	仙北市では、少子高齢化や若者の人口流出等による人口減少が続いている。市外在住者に対して幅広く仙北市の情報を発信し、市内への定住をすすめて人口増加を図り、仙北市の定住人口3万人の確保を図る。
事業の内容 （どのような業務、 活動を行うのか）	定住対策に対する市民の意見を聞くために定住対策懇談会を開催する。市外在住者に対しては、空き家情報バンクや定住促進奨励金制度を創設し、全国に市の定住対策をPRする。また、定住に興味がある人を対象に、スローライフモニターツアーを開催し、仙北市の魅力を体感してもらう。

【事務事業の推移】

項 目		単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	定住相談者数 目標	人		
		実績	人	27	161
		達成度	%		
	成果指標	定住者数 目標	人		
		実績	人	6	21
		達成度	%		
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
	事業費（人件費を除く）(A)			631	980
	人 件 費 (B)	—		16,142	15,850
	職 員 数	—		2.00	2.00
	職 員 平 均 人 件 費	—		8,071	7,925
	(A) + (B) 投下コスト			16,773	16,830
	財源内訳	国 庫 支 出 金			
		県 支 出 金			
		地 方 債			
		そ の 他			
		一 般 財 源		16,773	16,830
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—		621,222	104,534
	市民1人当たりのコスト(円)	—		534	542

【事務事業の今までの成果】

空き家情報バンクへの登録件数も着実に増えており、平成20年度は4軒、7名の方がバンクを利用して定住している。スローライフモニターツアーについても定員を上回る応募がきている。
また、定住相談窓口についても認知されつつあり相談件数が増えている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	空き家情報の発信や体験ツアーを企画する自治体が増えている。秋田県でも平成21年度から新規事業として「秋田暮らしお試し事業」を実施する。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	事業の必要性は強く感じている。特に雇用の場の確保については急がなければならない。このままでは人口減少が続くと考えられる。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	定住対策懇談会で議論を重ねてきたが、市の総合計画の最終年度も平成27年度となっているため、事業そのものが途中段階となっている。空き家情報バンクを活用した実績も増えてきており、継続の必要性は高いと判断できる。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	定住者の確保に成果を挙げています。実際に移住し、市民となられた方々へのフォローアップ等を踏まえ、改善を図りながら継続すべきと考えます。

一次評価診断図

